
声をかける勇気

今谷次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

声をかける勇氣

【Nコード】

N7226R

【作者名】

今谷次郎

【あらすじ】

僕は一目惚れをした。だけど、彼女は普通じゃない存在だった。

彼女と出会ったのは、水曜日の午前中だった。
音楽の授業の前、つまりは小休止の移動教室のおり、偶然見かけたのだ。

彼女が、隣のクラスの三組に所属している事、廊下側の一番前の席に座っている事を同時に知った。

そして、今にも消え去りそうな、弱々しい笑顔の持ち主だと言う事を知った。

僕は友達に話しかける時、偶然にも彼女を視線に捉えたただけだ。出会ったと言う言葉を使うには、一方的かもしれない。

それでも、とにかく、僕は彼女の存在を知ってしまった。
一目惚れをした。

その時から、僕にとって三組は特別な存在になった。

体育の二クラスの合同授業でも、社会見学の偶数奇数クラスで分ける合同授業でも、隣のクラスなのに、僕たち二組と三組は一緒に
なることは無い。

そんな、近いのに遠い、三組が僕にとっては特別になった。
いや違う。

彼女の存在が、僕の人生経験の中で、異彩を放っていた。
輝かしかった。

初めての出会いから、僕は彼女の存在を調べた。
友達にも聞けない。

聞いてしまったら、全てが終わる気がした。
きっと、彼女は、僕以外から見ても特別だと思ったから。

さりげなく、遠回りに、彼女の情報を調べた。
同時に僕は勉強した。

彼女とコミニケーションをとるためには、特別な技能が必要だと思われるからだ。

普通の高校生が必要としていない能力が必要だった。勉強をするうちに、何度も不安になった。

僕は今の生活を手放す事になるかもしれない……。

それでも、僕は彼女が好きだった。

この気持ちは抑えきれなかった。

そして。

出会いから二週間後の今日。

僕は彼女に声をかけようと思う。

もしかしたら、僕は……。

両親とも、友達とも、全ての親しい人とお別れする事になるかもしれない。

それでも、声をかけたかった。

彼女の存在は、僕を魅了していた。

昼休みの事だ。

彼女の席。

廊下側、一番前の席に座っている彼女の前に、僕は立っている。

いざとなると言葉が出てこない。

僕はこんなにも確かな彼女への好意を持っているというのに、恐怖が僕を支配する。

負けるな！ 男たる！

周りの疑問の視線も、奇異の視線も無視して、僕は彼女に話しかけた。

「二ーハオ。明日でお別れだね。あ、初めましてだよ。えっと、何言っているのかわからないと思うけど、僕も訳わかんなくなってきた。だから……。単刀直入に言います。僕はあなたの事が好きです！」

彼女の返答は。

「ゴメンなさい」と短かった。

そして、彼女は少し考えてもう一言付け足した。

「私、長い、速い、日本語わからない」と。

僕の勉強は、むなしく成果なかった。

二―八才しか言えて無いじゃん！

他は日本語だったじゃん！

残念ながらと言うべきかわからない複雑な気持ちなんだけど、僕が中国に旅立つのはもう少し先かもしれない。もしかしたら、そんな日は来ないかもしれない。

それでも今日、僕は彼女とメール友達になれた。

彼女が中国に帰った後も、僕と彼女の関係は終わらない。

いや、元々、関係なんて『一目惚れして遠くから眺めている』程度しかなかったのだけど。

それでも、今日は僕にとって嬉しい記念日になった。

それは、多分、この先もずっと変わらない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7226r/>

声をかける勇氣

2011年3月23日00時03分発行